

# 令和8年度 学力向上アクションプラン

学校番号

159

江戸川区立上小岩第二小学校

「全国学力・学習状況調査」平均正答率東京都との差				「江戸川区学力調査」平均正答率全国との差								
学年	第6学年			学年	第3学年		第4学年		第5学年		第6学年	
年度	国語	算数	合計	年度	国語	算数	国語	算数	国語	算数	国語	算数
令和12年度の目標				令和12年度の目標								
令和11年度の目標				令和11年度の目標								
令和10年度の目標				令和10年度の目標								
令和9年度の目標				令和9年度の目標								
令和8年度の目標	±0	+2	+1	令和8年度の目標	0.4	4.5	4.2	1.4	0	4	0.7	8.2
令和7年度の結果	-6	-1	-7	令和7年度の結果	-1.6	4.2	3.9	-0.6	-2.3	2.0	-1.3	8.1
令和6年度の結果	-9	-6	-15	令和6年度の結果	-1.8	-5	-3.2	-2.8	-6.9	-4.3	-6.7	-10.6
令和5年度の結果	-5	-5	-10	令和5年度の結果								

年度 内容	令和7年度 成果と課題	令和8年度	
	目標	目標達成に向けた取組	
学校全体	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>漢字の書き取りや計算練習の反復で多くの学年で基礎的な技能が定着した。</li> <li>要約指導やよむYOMUワークシートの活用などによって、読解力が向上しつつある。</li> <li>5・6年を中心に複数の領域で全国平均を上回る成果が出ている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>文章の叙述に基づく読み取りが十分身につけておらず、読解の深さにばらつきがみられる。</li> <li>作文の表記や構成、根拠を示す表現が十分身につけておらず、書く力が十分に育っていない。</li> <li>算数科では、測定・単位や文章題の立式などの基礎的な技能が十分に育っていない。</li> </ul>	<p>○文章の根拠を読み取り、要点や登場人物の心情を自分の言葉で説明できる力を全校で育てる。</p> <p>○低学年は表記の正確さ、中学年は要約力、高学年は根拠を示した論理的記述へとつながる体系的な書く指導を全校で実施する。</p> <p>○九・四則演算の確実な定着と、文章題を図示して条件を整理し立式する学習習慣を全学年で定着させる。</p> <p>○時刻・時間・長さ・かさ・単位変換を具体的活動や実測を通して理解させ、日常的な問題解決に応用できる力を養う。</p>	<p>○文章の根拠を見つけて、自分の言葉で説明できる読解力を育てるために、根拠と結論を可視化する授業づくりを工夫したり、高学年ではよむYOMUワークシートワークを実施する。</p> <p>○学年に応じた段階的な書く力を定着させ、表記や構成に自信を持たせるために、授業内で自分の考えを記述する学習活動を多く取り入れたり、振り返りをノートに書く習慣をつける。</p> <p>○文章題を図や式で整理して立式する習慣を全校で定着させるために、授業の中で図や式を書く時間を設定したり、児童が互いの立式の考え方を説明する場を設定する。</p> <p>○時刻・長さ・かさ・単位の理解を深め、日常の場面で使える力を育てるために、生活場面を取り入れた授業を展開する。また、継続的に既習事項を振り返る機会を設ける。</p>
第1学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国語科においては、漢字の学習、小テストを繰り返し行ったことで、9割の児童の漢字の書き取りが定着している。文章を読むことは、言葉のまとまりをとらえてすらすら読める児童9割以上いる。</li> <li>算数科においては、計算の仕方を9割の児童が理解し、たし算ひき算の誤答が少なくなっている。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○作文を書く時の、表記を正しくできない児童が2割程度いる。</li> <li>○算数科の文章題で、正しく立式できない児童が2割程度いる。</li> </ul>	<p>○国語科において、文章を正確に読み取ることができる。</p> <p>○算数科において、文章題で、イメージをもって立式できる。</p>	<p>○漢字の定着を図るために、小テストで、繰り返し漢字練習をする時間を確保する。</p> <p>○音読を毎日することで、語彙力を上げ、言葉をまとまりでとらえて理解できるようにする。</p> <p>○算数科では、お互いの考えを伝えあう時間や教え合う時間を確保する。</p> <p>○テストやプリントなど、間違えたことは何度も直し、理解を定着させる。</p> <p>○自主学習では、苦手なことを見える化して取り組み、できないことを減らしていく。</p>
第2学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国語科において、新出漢字について、毎日の授業のはじめにミニテストを実施し、定着状況を確認する機会を設けた。その結果、漢字の定着度が向上した。算数科においては、計算練習に繰り返し取り組んだことで、計算技能が向上した。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国語科においては、文章を拾い読みする児童が見られるなど、読む力が十分に育っていない状況がある。算数科においては、時刻と時間、長さ、かさに関する知識や技能が十分に定着していない。</li> </ul>	<p>○国語科においては、読解力の基礎となる、言葉を流暢に読む力を育成する。</p> <p>○算数科においては、時刻や時間、長さ、かさなどの学習で用いる算数の言葉の定着を図る。</p>	<p>○国語科においては、毎日の授業の中で帯学習として音読に取り組む。継続的に実施することで、読む力の向上につなげる。</p> <p>○算数科においては、かけ算、ひき算、たし算については、引き続き繰り返し練習を行い、技能の向上を図る。また、時刻と時間、長さ、かさなどの学習についても復習の機会を多く設け、習熟を促す。</p>
第3学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国語科の物語文の学習では、登場人物の気持ちをハートマップで表す学習を年間通して行った。叙述を基に登場人物の気持ちを読み取れるようになった。</li> <li>○算数科ではベーシックテストを繰り返し実施することで、基礎学力の定着が図られた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国語科では、自分の考えを文章で表現する力が十分に育っていない。</li> <li>○算数科ではかけ算九九などの基礎基本が身につけていないことで、学習に困難を抱える児童がいる。</li> </ul>	<p>○国語科では、自分の考えや意見を整理して文章で表現する力を高めるとともに、漢字の読み書きの定着を図る。</p> <p>○算数科では、かけ算九九の定着を図り、基礎基本を身に付けることで、割り算や2けたのかけざんの筆算の理解に繋げていく。</p>	<p>○家庭学習を計画的に行うことで、児童が見通しをもって学習に取り組めるようになった。今後も児童が見通しをもって学習に取り組めるよう、家庭学習の内容や進め方を工夫していく。</p> <p>○国語科では音読に取り組む時間を設定する。</p> <p>○算数科では、既習事項の振り返りに取り組む時間を設定する。</p>
第4学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国語科では、文章を書く力を向上に向けて、要約する機会を設けてきた。文章から要点を抑えて、要約する授業を展開した。江戸川区学力調査の結果から、「書くこと」の正答率が高かった。</li> <li>○算数では、授業内で適応問題まで取り組むことを意識して授業してきた。その結果、応用問題は全国平均を上回ることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国語科の「話すこと・聞くこと」が全国平均より数ポイント高い結果となった。聞き取りの際、着目すべき言葉を抑える必要がある。</li> <li>○算数科では、教科総合や基礎が全国平均をやや下回っており、特に「数の計算」「測定」の領域に課題が見られる。四則演算の定着や単位の相互理解に課題が見られるので、基礎的な内容の定着を図る必要がある。</li> </ul>	<p>○国語科では、読み取ったことを自分の言葉でまとめたり、理由をつけて表現したりする力をさらに伸ばす。</p> <p>○算数科では、四則演算等の基礎的な知識を図る。</p>	<p>○国語科では、初発の感想において書き方を定め、論拠をもって自分の考えを書くよう指導する。</p> <p>○算数科では、個に応じた学びの展開を目指し、四則演算の基礎の定着を図るよう指導する。</p>
第5学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国語科の「話すこと・聞くこと」も82.4%で全国平均に近い結果となっており、話し合い活動や相手の話を理解する力は概ね定着していると考えられる。文章を読み取り内容を理解する力や、相手の話を聞きながら考える力については、これまでの学習の成果が表れているといえる。</li> <li>○算数の最初の5分に計算タイムを設け、基礎的な練習を反復した。「数と計算」は全国平均を大きく上回っており、計算の仕方や数量の関係などの基礎的な理解がしっかりと身につけていることがうかがえる。また、「変化と関係」は86.3%、「データの活用」は81.4%でいずれも全国平均を上回っており、数量の関係を捉えたり、資料を読み取って考えたりする力が育っていると考えられる。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国語科では自分の考えを記述する力が十分に身につけていない。</li> <li>○算数科では、文章問題で問われていることを正しく理解する力が十分に身につけていない。</li> </ul>	<p>○国語科では、自分の考えを根拠を明確にして各活動を行う。</p> <p>○算数科では、問題の条件を整理し、考え方や理由を説明する活動の充実。</p>	<p>○振り返りを充実させ、自分の考えを書く機会を多くもたせる。</p> <p>○前学年までの復習の時間を確保する。</p>
第6学年	<p>【成果】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○国語科では、よむYOMUワークシートを活用したことで、読解力向上につなげることができた。江戸川区学力調査の結果から、児童は、「話すこと・聞くこと」の正答率が高かった。算数科では、ドリルパークや既習事項を重点的に取り組めるようなプリント集を作成し、5・6年生で学んだことの定着につなげることができた。すべての領域で全国平均を超えることができた。</li> </ul> <p>【課題】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○江戸川区学力調査の結果から、国語科では、正答率の2極化が見られた。特に、「書くこと」「読むこと」は、全国平均を下回る結果となった。算数科では、D層の児童が、令和6年度の結果と変容が見られなかった。</li> </ul>	<p>○国語科において、文章中の要点を見いだす読解力や、自身の考えや問われていることを記述する力を高める。</p> <p>○算数科では、習熟度に応じた授業展開を確実に実施する。また、C、D層の児童については、EDOスクと連動を図るとともに年間を通して、既習事項を振り返られるような時間を設定し、C、D層の上昇を目指す。</p>	<p>○国語科においては、よむYOMUワークシートを週一回取り組み、よむYOMUノートを作成し、記事に書かれていることについての自分の考えやわかったことを書く機会を設ける。また、全教科において、ふりかえりを記述することで、書くことについての抵抗感をなくしていく。</p> <p>○算数科において、年間を通して既習事項を振り返るプリントを取り組む。</p>